

令和5年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞(事務次官賞)

「明日を守る私たちの行動」

東京都 国立学園小学校 2年 田中 夢乃^{たなか ゆめの}

私は、ようち園のころから気象にきょうみがあります。勉強をしていくと、気象のへんかはさいがいにもつながることを知りました。しゅう中ごう雨は毎年ふえていて、45年間で2倍になっています。線状こう水たいということばも新聞やニュースでよく見ます。気象よほう士さんが台風や大雨の時に、「土砂さいがいにちゅういしてください。」と言っていて、そんなに多く発生しているのかな、とぎもんに思いました。

調べてみると、年間1000けんもおきていて、土砂さいがいのきけんがある所は東京都だけで15000か所もあるとして、おどろきました。日本の多くは山地で、火山も多く、もろくて崩れやすい特ちょうがあることを、気象科学かんで知りました。テレビであつという間に家や車が、土や岩やにごった水にのみこまれるのを見て、とてもこわいとかんじました。砂防えんていや、けいしゃ保全工などたくさんの方さくをしているけれど、時間やお金が多くかかります。でも、台風やしゅう中ごう雨は待つてくれません。

私がすむ町は、大雨がふったらどうなるんだろう。何に気をつければいいんだろう。と思い、いっしょにすむおばあちゃんにそうだんしました。おばあちゃんが

「町の特ちょうをすることから、はじめよう。」と言ってくれたので、市役所へ行ってハザードマップと土砂さいがいけいかい区いきマップをもらいました。見てみると、ひなん場所は家族で何度もかくにんしたことがあるので知っていました。でも、バスていの近くに地区さいがい時待ひ所の協力のう地があることは、初めてしりました。また、私がバスで通学をする時に、より安全な道をとおることができるように、家族全いんで歩いてみました。一人ひとり生活する場所も、くらしもちがうから、一人ひとり自分に合った命を守るじゅんびが大切なんだ、と気付きました。

また、私が空や雲を見て天気のへんかに気づくように、土砂さいがいにも前ぶれがあるとニュースで聞きました。土砂さいがいをうけた町の人がインタビューに、

「小さい川の水がふえて、小石がおちてきたり、山のほうでいつもとちがう音がしていた。」とこたえていました。いつもとちがうということもちゅういがひつようだとかんじました。

そして、なぜ日本に土砂さいがいふえているのかを考えることも大切です。人が出しつづけている二酸化炭素をへらすことがさいがいの対さくにもなります。私は8さいですが、できることがあります。それは、地球温だん化を止めるために行動すること、それを周りの人に伝えることです。一人ひとりが行動を少しかえれば、さいがいはへって、自然とともに安心なくらしが続いていくと思います。私は、一つ一つ行動していきます。